

《議員インタビュー参加学生の感想・コメント》

氏 名：下田 真宗 さん
所属・学年：公共政策学科・1年生

初めて、県議会の審議を傍聴してみて、傍聴する前は堅苦しいイメージがあり、大学生が理解できる内容なのかと思っていた。しかし、実際に傍聴してみるとそのようなことはなく、私の興味ある分野も話されていたのでとても話が入ってきやすかった。

議員さんへインタビューする経験はもちろん初めてでしたが、思っていた以上に議員さんが優しく、私たちに歩みよって頂いて話してくださったのでとてもインタビューがしやすかったと思う。

氏 名：島田 鴻慈 さん
所属・学年：公共政策学科・2年生

今回、事前に県議会の議事録、県議の方々の経歴に目を通し、議会の録画を視聴し、県議会訪問までにできる限り多くの記録に目を通した。しかし、議会での一般質問の傍聴、そしてインタビューを通じて、議事録等を読むだけでは見ることができない議員さんの想いに新しく触れることができた。県議会議員の皆さんが市民の代表としてふるまおうとする姿勢は印象に残っている。

インタビューの感想としては、私がインタビューを行った北村議員は現実を正確に見て事象を考察し、自身の行動や立案の参考にする態度、政治に対する理念とそれに基づいた政策追及の熱意がそれぞれ「なぜ選出されたのか」「なぜ政治家になれたのか」という疑問への答えになっていた。また、私が話を聞くことができた北村議員、堀江議員ともに自分には無い視点の政策構想を持っており、非常に得るものが多いインタビューとなった。

次年度以降の活動に向けた提案や改善点としては、議会を全編通して傍聴したいという気持ちがあった。今回は二人の議員さんにインタビューを行ったが、時間が足りないという印象があったので、議員さんの時間との兼ね合いもあるが、可能であれば、もう少し時間を確保し、もう一人ほど議員さんからお話を伺ってみたい。

氏 名：井出 翔馬 さん
所属・学年：公共政策学科・3年生

県議会の視察および審議傍聴を終えて、議会に対する印象が大きく変わった。これまでの議会の印象としては、正直近寄りがたい存在で一生訪れることがない場所だと思っており、議会の様子なども学校の教材で見かける程度であった。今回、実際に議会を視察・傍聴してニュースでよく見かける時事が直接議論されており、この場所で県政が動いていることを肌で感じる事ができた。この経験を通して、議会は決して近寄りがたい場所ではなく、長崎県の問題・課題に対する議論がそこでなされているという点で身近な場所であると捉え直すことができた。

県議へのインタビューを終えた感想として、県政に携わっている議員の方々に直接 IR や観光などの各分野についてどのように考えているのかを伺えたことは大変貴重な経験だったと改めて感じた。大学で学んだ理論や知識が現場でどう活かされているのか、どう動いているのかについて自分の目で確かめることができ、今後の大学での学びにつながったと思う。インタビューの内容に関しては、私が担当した宮島議員・赤木議員ともに「長崎県から出ていくことを止めるのではなく、長崎県に戻ってきたくなるような環境整備が必要」だとおっしゃっていたことが印象に残った。

長崎県は人口減少、とりわけ社会減が深刻化しており、若者の人口流出を抑えることはもちろんであるが、一度長崎県を離れた人が古巣に戻ってきやすい環境づくりの方にも力を注いでいることは今回のインタビューを通して知ることができた。また、観光分野についても特に交通の便が不便で移動距離が長い地域における観光として、長い移動時間をマイナスとして捉えるのではなく、風景などをゆっくり楽しむことができるプラスの要素に転換できるとの意見をいただいた。一見すると弱みだと捉えられてしまいそうな要素も発想の転換で強みにすることができるということもインタビューの中で印象深い内容であった。

次年度以降の活動に向けての提案として、今年度は学生が質問を行い、議員の方々に回答や見解を述べていただく方式であったが、今回は質問内容を早めに決めて学生の意見(政策提案など)も議員の方々に伝えることができたならより充実したものになるのではないかと思う。また、上記と似た内容ではあるが、議員の方々が質問を行い、私たち学生に意見を求める時間を設けても面白いのではないかと感じた(例えば、IR について大学生の視点からどのような印象を持っているかなど)。

氏 名：濱崎 輝 さん

所属・学年：公共政策学科・4 年生

議員の皆様が長崎県のことを考えて頑張っているのがよくわかった。質問することへの準備、努力も感じ取れて、政治がより身近なものに感じた。選挙権年齢が引き下げられ、選挙や議会に関心を持つことの大切さが改めて唱えられる中で、地元の問題について関心を持つ貴重な経験となった。

県議へのインタビューでは、議員の皆様がどのようなことに関心を持っているのかがよくわかる貴重な経験となり、実践的な意味で長崎県の問題を捉え、未来に向けて行動している様子が印象に残った。政治に関心を持つきっかけにもなったので、ぜひ自分の後輩となる学生たちにも参加してほしい取り組みであった。

次年度以降の活動に向けた提案や改善点としては、議員の皆様も多忙なスケジュールの中でインタビューの日程を開けてくれていることは重々承知しているが、もう少しゆっくり話を聞く時間があると良いと思う。

氏 名：松田 あすか さん
所属・学年：公共政策学科4年生

今回、県議会協定事業に初めて参加させていただいた。県議会が行政組織の中でどのような立ち位置で、どのような役割を持っているのか机上で学んだことはあるものの、実際に一般質問を傍聴したり、議員の方と話したりする機会はこれまでなかった。そのため、この事業を通して普段議員の方がどのような想いで活動されているのか知り、県議会がとても身近に感じた。

赤木議員にインタビューした際に、「県議会議員は市民の声を行政に届けることが仕事」とおっしゃっていたことから、言い換えれば、県議会議員は、「行政と市民をつなぐ架け橋的存在であり、積極的な市民」といえるのではないかと考えた。議員のみなさんの長崎県に対する熱い想いに触れ、改めて、政治や県議会に興味を持つきっかけになった。今後もこのような交流の機会があれば積極的に参加していきたいと思っている。

県議会議事録や県議経歴を読んだり、議会の録画を視聴したりと、議会について訪問までに多くを観て聴いた。しかし、議会での一般質問、そしてインタビューを経て触れた議事録を読むだけでは見ることはできない想いに新しく触れることができた。北村議員は現実を正確に見て事象を考察し、自身の行動や立案の参考にする態度、堀江議員は政治に対する理念とそれに基づいた政策を追求する熱意が、それぞれ「なぜ選出されたのか」「なぜ政治家になれたのか」という疑問への答えになっていた。また、どの議員さんも自分には無い視点で、政策構想を持っており、非常に得るものが多いインタビューとなった。今後こうした機会があれば、積極的に参加し、活用していきたい。